

東松島市図書館は昭和30年、矢本町立図書館として設置され、その後平成5年、現在地に単独の図書館施設として開館しました。平成17年4月に矢本町と鳴瀬町が合併し、矢本町立図書館から東松島市図書館と改称しました。現在は、本館と図書配本所として4か所の市民センターで構成されています。

平成23年東日本大震災では甚大な被害を受け、図書館では市民の被災体験を映像として記録・保存し後世に語り継ぐことを目的に、平成24年に「ICT地域の絆プロジェクト」を発足しました。これからはいろいろな情報を発信する場として、図書館の役割は重要だと考えております。

また、新型コロナウイルス感染症の流行から、令和2年よりオンライン予約を開始し、多くの方に御利用いただいております。

令和4年3月の福島県沖地震では、図書の9割が落下、天井が湾曲し書架の破損などの被害があり、復旧工事のため3か月半の臨時休館となりましたが、7月1日より開館することができ、現在は通常開館しております。

休館中は市民の皆さんから、たくさんの温かい声をかけていただき、改めて図書館の運営にあたり、市民の皆さんから愛される図書館として、地域に密着し、親しまれる図書館になりたいと願っております。



東松島市図書館
蔵書数 / 135,274冊
(令和4年3月31日時点)
開館時間 / 火～金曜日:午前10時～午後6時
土・日・祝日:午前10時～午後5時
●休館日 / 毎週月曜日 ※祝日にあたる場合はその翌日、毎月最終金曜日(図書整理日)
※祝日にあたる場合はその前日、年末年始、蔵書点検期間
住所 / 〒981-0503 宮城県東松島市大湫1-1
TEL:0225-82-1120 / FAX:0225-82-1121

BOOK librarian's selection
図書館員から読書のすすめ

『そうだ、葉っぱを売ろう！
過疎の町、どん底からの再生』
横石 知二(著)ソフトバンククリエイティブ(出版)



葉っぱを売ることによって、元気になった町があります。徳島県中部にある上勝町です。様々なメディアに取り上げられ、有名になった葉っぱビジネス、彩(いろどり)事業ですが、私が初めてこの「葉っぱ」を知ったのは10年ほど前のことです。当時、神奈川の大学に通っており、地元である宮城に戻ろうかと考えていたころでした。しかし、帰省する度にどんどん寂れていく地元に対して、どうにかならないものかと思っていたところ、父から「葉っぱを売って元気になった町がある」と教えられました。それまでは歴史小説と昆虫関連の本しか読んでいなかった私でしたが、その「葉っぱを売る」という強烈なフレーズがいつまでも頭に残り、この本を読み始めました。

この本には上勝町という徳島県で一番小さい町で改革を起こした人々の姿が描かれています。その改革の仕掛けが著者の横石知二さんです。

当初、上勝町には仕事がなく若者もいない町でしたが、横石さんは上勝町の豊かな自然を活かし、価値のないとされていた葉っぱで、「つまもの」市場を作り上げました。そして町に新しい産業ができたことで、町の人々は生きがいを取り戻していきます。この彩事業は、女性と高齢者を主役にしたりと、高齢者にパソコンを使わせたり、横石さんの様々な工夫と努力で成功していきます。

地域活性化が叫ばれて久しいですが、横石さんのように自分たちの町を何とかしていきたい、という強い情熱を持っている方はどのくらいいるのでしょうか。この本は、人口減少と少子高齢化が着実に進む地方で、どのように生きていくのか1つの成功例を示しており、今後の地方のあり方(姿)を改めて考えさせてくれる作品といえるでしょう。

「視点を変えれば、田舎は超条件有利地域」。横石さんの言うように地方はまだ可能性に満ち溢れているのかもしれない。

この本は、私が地元を抱いていた不安を希望に変えてくれた一冊です。上勝町の「葉っぱ」を知っている方も、知らない方にもお読みいただければ幸いです。

資料奉仕部 資料情報班 青山 大祐

書影は版元ドットコム <https://www.hanmoto.com> より使用しています。

図書館からのお知らせ
INFORMATION

企画展「みやぎのスポーツ -マイナビ
仙台レディース誕生までの歩み-」

2階展示室にて、「みやぎのスポーツ -マイナビ仙台レディース誕生までの歩み-」を開催しています。「マイナビ仙台レディース」の紹介を中心に、宮城県のプロスポーツチームについて展示しています。入場は無料です。ぜひお越しください。

- 期間 令和4年9月3日(土)～11月20日(日)
- 時間 宮城県図書館2階 展示室
- お問合せ 企画協力班(022-377-8444)



KOTOBA
N O
U M I

宮城県図書館だより

ことばのうみ

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 73 2022.10

特集

県制150周年記念

図書館資料からみるみやぎの明治時代



企画展示を見る家族

第73号
2022年10月発行
編集・発行 宮城県図書館
〒981-3205
仙台市泉区築山一丁目1番地1
TEL022-377-8441(代表)
FAX022-377-8484
ホームページ
<https://www.library.pref.miyagi.jp/>

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル「ことばのうみ」は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典「言海(げんかい)」(1889～1891年刊行)に由来する。

表紙ウッセイ 著者紹介

佐藤友紀乃(さとう ゆきの)

モデル・リポーター・タレントとして幅広く活動中。宮城県仙台市在住。宮城テレビ放送「OH!バンドス」、仙台放送「仙臺いろは」、FM仙台「AirJAM Friday」など、

レギュラー番組も多く、CM・スチール・ドラマ・映画など、マルチに活躍している。趣味はキャンプとライブ参戦。

いよいよ2022-23 Yogibo WEリーグ開幕!

マイナビ仙台レディース ホームゲームスケジュール

ホーム開幕戦

ELFEN E

VS CHIFURE SAITAMA ちふれASエルエフ埼玉 10月22日 13:00 KICK OFF

VS OMIYA ARDIA 大宮アルディージャVENTUS 11月26日 13:00 KICK OFF

VS YAGIYAMA CITY 仙台市若林区千葉レディース 12月10日 13:00 KICK OFF

会場:アパテックススタジアム仙台

中島 依美選手

詳しくは ホームページ をご覧ください

旅行計画
モデル 佐藤 友紀乃

新型コロナウイルスが流行し始めて数年。「どこか遠くへ旅行に出掛けて気分転換でもしたいけど……」という方も多いのではないのでしょうか。そんなとき私は、本を読んだ旅行気分を味わうのが好きです。とは言ったものの、私の旅の楽しみ方は作品の世界に没入するものではありません。現実と照らし合わせて楽しむのです。

たとえば、私が一番好きな作品はハリウッドシリーズ。この作品は、皆さんご存じの通り魔法使いの物語。もちろん私たちがいる現実世界では、今のところ、あり得ないお話です。ただ、舞台となっている場所はイギリスのロンドン。空想の地名や建物が出てくる中に、時折実在する駅や地名も出てくるのです。本を読み進めながら、「ここは実在するのだろうか」、「実在するのならどのあたりだろうか」と、パソコンやスマホで検索して、見知らぬ土地の地図を眺め、「いつか行ってみたいなあ」と妄想しながら楽しむのです。

ロンドンは私の「人生で行きたい場所リスト」の中のひとつ。予定はないけれど、新婚旅行で行くつもりです。ただ最近、新シリーズの舞台がアメリカであったり、他の好きな作品の舞台にも行きたくなったりと、行きたい場所リストがどんどん増えていきます。大変です。

暗いニュースや、「やりたい」を制限されることが多い今だからこそ、好きな本を読み、これからの人生の楽しみをどんどん増やしていくこと、日々新たな世界を求めて本を探しています。

「暗いニュースや、「やりたい」を制限されることが多い今だからこそ、好きな本を読み、これからの人生の楽しみをどんどん増やしていくこと、日々新たな世界を求めて本を探しています。」

図書館資料からみるみやぎの明治時代

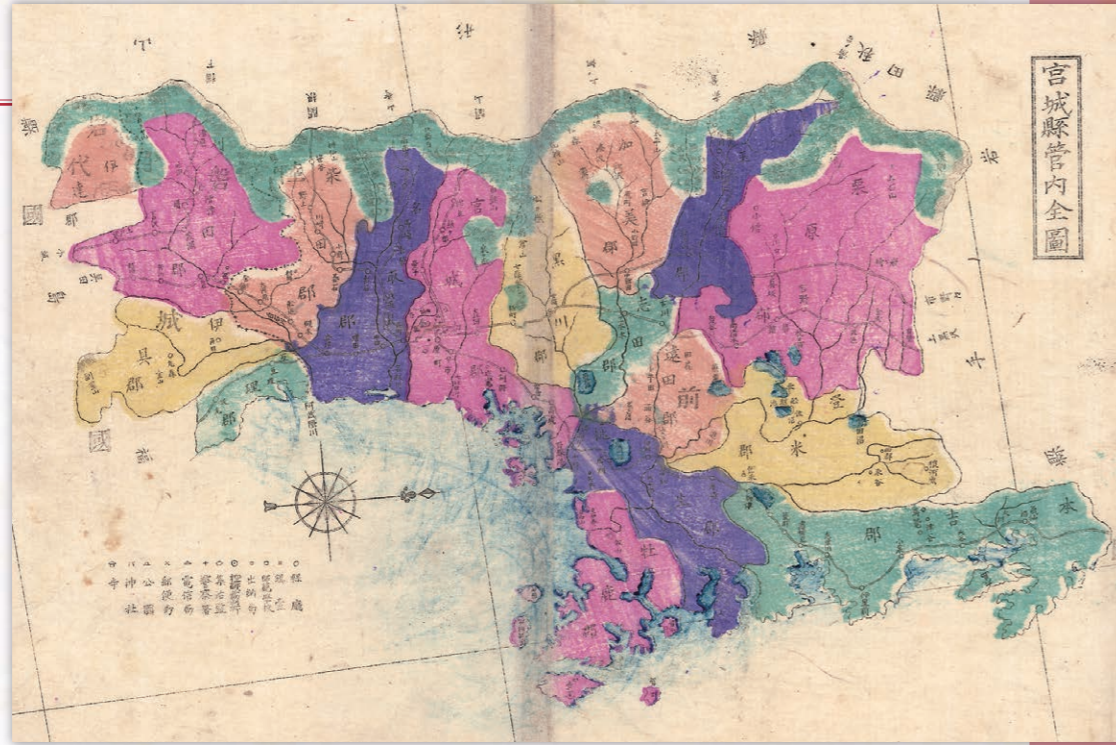
宮城県は、明治5年1月8日(1872年2月16日)、旧仙台藩を中心とする「仙台県」から改称するかたちで成立し、令和4年(2022年)に誕生150周年を迎えました。

これを記念して、当館が所蔵する資料を通じて黎明期の宮城県のすがたを振り返ります。

*この特集は、企画展「図書館資料にみるみやぎの黎明」(会期:令和4年6月4日から8月28日まで)の展示内容を再構成したものです。

宮城県の誕生

明治4年(1871)7月、廃藩置県が行われ、新仙台藩は仙台県となり、同年11月には仙台・登米・角田の3県が合併し、改めて仙台県が設置されました。明治5年(1872)1月8日には仙台県から宮城県へと改称されました。その後も隣接する県との間で再編成が何度も行われ、旧仙台藩領に設置された県名は14にも及びました。最終的には明治9年(1876)8月21日、現在の宮城県の行政区画が確定しました。



「宮城県管内全図」
『宮城県地誌提要』宮城師範学校編
宮城県学務課 明治15年(1882)

『宮城県地誌提要』は「管内地理ノ概略ヲ誌シテ小学生ノ誦読ニ便スル」(「凡例」より)ことを目的とした教科書です。巻頭の折込図「宮城県管内全図」では国名・郡名や主要な地名のほか、県庁・鎮台等の位置が記号で示されています。郡ごとに色分けされていますが、宮城県域ではない岩代国伊達郡も着色されています。

参事から知事へ

明治4年(1871)11月、旧館林藩士で登米県大参事兼通商権頭の塩谷良翰が仙台県参事・県令心得に就任しました。塩谷は地租改正事業等に着手しましたが、6年(1873)2月免官になりました。代わって旧長州藩士で入間県参事の宮城時亮が参事(のち権令)として赴任し、地租改正事業、土族授産事業などに取り組みました。宮城は明治11年(1878)6月県令に昇格した後、7月には願により免官となりました。

その後、旧福井藩士で内務権大書記官の松平正直が明治11年7月20日、権令に任じられ、同25日県令に昇格しました。明治19年(1886)7月には地方官官制により、県令を改めて初代知事となりました。明治24年(1891)熊本県知事に転任するまで、松平は12年10か月にわたり在任し、県民からの信頼も厚かったといわ

れています。転任後出版された『松平正直君治績概要』では、県会・郡市町村・土木・勸業などの項目別に、在任中の松平の業績が列挙されています。

「内務次官松平正直君」
『太陽』5巻1号 博文館
明治32年(1899)1月



内務次官松平正直君

MR. M. MATSUDEIRA THE VICE-MINISTER OF THE HOME AFFAIRS.

政治家たちの肖像

明治11年(1878)に公布された府県会規則に基づき、明治12年(1879)1月県会議員選挙が行われ、44名の県会議員が選出されました。第1回県会では宮城師範学校を臨時議場として、明治12年3月20日から1か月間にわたり開催されました。県会議事堂は明治15年(1882)、県庁舎と道路をへだてた表小路に新築落

成し、同年の県会から使用されました。増田繁幸は、仙台藩大参事・一関県参事などを歴任したのち、第七十七国立銀行の創立に携わったほか、県会開設とともに初代県会議長となり、地方制度創立期に指導的役割を果たしました。明治22年(1889)、大日本帝国憲法公布と同時に衆議院議員選

挙法・貴族院令が定められ、第1回衆議院議員選挙が明治23年(1890)7月1日に実施されました。

宮城県では増田繁幸、武者伝二郎、十文字信介、熱海孫十郎、遠藤温の5名が選出されました。また、宮城県関係の貴族院議員として、伊達宗敦(男爵互選議員)、富田鉄之助(勅撰議員)、金須松三郎(多額納税議員)が選出されています。

国会議員候補者の肖像(『宮城県国会議員候補者列伝』
藻塩舎主人(佐々木泰)著 晩成書屋 明治23年(1890))



軍隊と戦争

明治4年(1871)、政府は東山道鎮台を東北に、西海道鎮台を九州に設置し、東山道鎮台の本営は石巻に置くこととしました。同年8月に2鎮台にかわって、東北・東京・大阪・鎮西の4鎮台が設置されました。明治6年(1873)東北鎮台は仙台鎮台と改められ、明治8年(1875)には連隊制度に基づき歩兵第四連隊がおかれしました。明治21年(1888)には、仙台鎮台が第二師団と改称されました。

仙台鎮台時代の出兵として、明治10年(1877)の西南戦争では歩兵第四連隊の二個中隊が出征したほか、旧藩の士族が巡查等の身分で徴募され、宮城県からの応募者のうち700名が新撰旅団などに編入されました。また海外出兵として、日清戦争では明治

27年(1894)10月29日から、第二師団の各部隊が長町停車場から出征し、遼東半島等での戦闘に参加しました。日露戦争では、明治37年(1904)2月16日、第二師団在仙部隊の親兵式が宮城野原練兵場で行われ、翌17日以降長町停車場から出征しました。



西南戦争の戦況を報じる記事
『仙台新聞』明治10年(1877)3月16日 相愛社

新しい学びの場

明治5年(1872)に学制が公布され、桃生郡鹿又小学校が明治6年(1873)3月に設立されたのははじめとして、明治6年中に226校の公立小学校が当時の宮城県内に設立されました。

中等教育機関としては、明治7年(1874)に官立宮城外国語学校が設置され、県への移管や名称の変更を経て宮城県尋常中学校となりましたが、明治21年(1888)に廃止されました。その後、私立の宮城英学校(明治19年(1886)東華学校に改称、明治25年(1892)廃止)を引き継ぐ形で宮城県尋常中学校が明治25年(1892)に再発足し、明治37年(1904)には宮城県立仙台第一中学校と改称しました。明治33年(1900)には宮城県第二中学校が設立され、明治37年(1904)に宮城県立仙台第二中学校と改称しました。

また宮城女学校(明治19年(1886)開校、現宮城学院)、尚綱女学校(明治25年(1892)開校、現尚綱学院)、仙台女学校(明治26年(1893)開校、現仙台白百合学園)がキリスト教系の私立女学校として設立され、女子中等教育機関の充実に大きな役割を果たしました。



「仙台市内学校幼稚園一覧」
『宮城県治要覧』宮城県編 宮城県 明治41年(1908)

新聞と雑誌

県内で発行された最初期の新聞として『官許宮城新聞』(明治6年(1873)4月創刊)、『官許東北新聞』(明治7年(1874)6月創刊)があります。『官許東北新聞』は旧仙台藩士須田平左衛門らが興した相愛社から発行され、一般内容の記事のほか政府の布告・布達も掲載されていました。相愛社は子ども向けの『仙台童蒙新聞』(明治10年(1877)6月創刊)も発行しています。

明治10年代以降、自由民権運動の高まりとともにさまざまな新聞や雑誌が発行されました。政治評論や演説筆記を中心とした『宮城政談雑誌』(明治14年(1881)12月創刊)は民権結社である宮城政談社が発行した雑誌です。また、大同団結運動のなか、代言人らによって結成された抱一館の有志が設立した時論社による雑誌として、立憲政体の確立を主張した『時論』(明治21年(1888)創刊)があります。

明治30年(1897)1月には、『河北新報』が創刊され、宮城県の代表的な新聞のひとつとなりました。また、『仙台報知』(明治32年(1899)5月創刊、のち明治39年(1906)3月に『仙台小間物商報』と改称)など実業界の情報を伝える新聞も登場しました。



『官許東北新聞』(第1号(明治7年(1874)6月5日),
第7号(明治7年(1874)9月18日) 東北新聞社)

【参考文献】
宮城県史編纂委員会編『宮城県史 3』宮城県史刊行会、1964
宮城県史編纂委員会編『宮城県史 7』宮城県史刊行会、1960
宮城県議会史編さん委員会編『宮城県議会史 第1巻』宮城県議会史編さん委員会、1968
宮城県議会史編さん委員会編『宮城県議会史 第2巻』宮城県議会史編さん委員会、1974

宮城県教育委員会編『宮城県教育百年史 第1巻』ぎょうせい、1976
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 通史編6』仙台市、2008
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 特別編4』仙台市、1997
仙台市史編さん委員会編『仙台市史 年表・索引』仙台市、2015